

実践のまとめ（第6学年 外国語科）

長岡市立富曾亀小学校 教諭 長谷川 亜耶

1 研究テーマ

自分が表したい内容に合う既習表現を活用して英語で伝える力の育成

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

低学年の学級活動に位置付けられたALTとの関わりや中学年での外国語活動、そして週当たり2時間、年間70時間の高学年外国語科での授業という長い期間での学習の積み重ねで、児童は外国語の音声や表現方法に慣れ、学習を通して世界には様々な人々がおり、文化があることを学んできている。だからこそ教師は、「児童が既習表現を活用し、自分の思いを英語で表現する姿」に期待感を高める。

しかし、実践を振り返ると、各ユニットの終末の「発表」や「やり取り」の場面で活動を行うことが多く、児童が発話している英語表現は、事前に原稿を作り、それを繰り返し練習することで暗記してしまっているにもかかわらず、やり取りをしているような雰囲気になっているというものが多い。さらには、「次の時間に発表をするから覚えてくるように」という指導もあった。自分が伝えたい内容を活用して、表現できるようになってほしいが、授業実践では「既習表現を即興的に活用する話す活動」と「自分が表したいことを覚えて話す活動」の違いとその境目を見極めることは非常に難しいと感じている。

小学校外国語活動・外国語研修ガイドブックには、「話すこと[やり取り・発表]」について、「最初から児童同士で対話をさせるのではなく、複数の指導者での指導が可能であれば、指導者同士の対話後、指導者と児童、児童同士の対話へと徐々に児童を対話に加えていく」ことが示されている。また、「少しずつ話題を変えて繰り返し話す活動に取り組み、徐々に言語材料の定着を促していく」とある。確かに、新出の学習内容は、短期間で身に付けることは難しいが、だからこそ、スモールステップを重ねて慣れ親しみ、定着を目指すことが必要である。

習得した表現を活用する活動については、「それまでに使用してきた言語材料を活用し」、「英語を使って達成する目的を明確にし、児童が意欲的に取り組めるようにする」。さらに、既習の疑問文を使って、より聞き手の関心を引き出しながら実際のコミュニケーションに近い状況で取り組む活動にしたいと記載されている。このような実態から、学びの蓄積を生かして自分の思いを英語で表現するには、Teacher Talkを聞いたりSmall Talkでやり取りをしたりする中で、言語活動の繰り返しと既習表現の活用がポイントとなるのではないかと考えた。

(2) 研究テーマに迫るために

① 継続的なSmall Talkの設定

既習事項を活用できるようにするには、学んだ言語を繰り返し使用する機会を設定することが必要であると考え。そこで、本単元では、授業の開始時に英語で会話をするSmall Talkを取り入れる。目的・場面・状況を設定した教師のモデルを見聞きした後、児童同士による即興的なペアトークにつなげたい。

- ② 既習表現を活用するための掲示物の作成・掲示を行う。

既習表現を活用して、自分の考えを表すためには、使いたい表現を目で見えて想起できる
 拠り所が必要だと考える。そこで、Teacher Talkを聞いたり、児童同士のやり取りをした
 りする際に、施設を表す言葉、動作を表す言葉、様子を表す言葉、長岡市にある施設の掲
 示物を作成・提示し、児童が話したい内容と英語の表現を結び付け、活用することができ
 るようにする。

(3) 研究テーマに関わる評価

- ① 「学んだ表現方法を積極的に使うようになった」と回答する児童が70%以上になる。
 (児童用アンケート)
- ② 「学んだ表現を活用して、自分の考えを伝えようと取り組むことができた。」と回答す
 る児童が70%になる。(児童アンケート)
- ③ 即興的な発表を行い、既習表現を活用して答える児童が60%以上になる。
 (パフォーマンステスト)

2 単元と指導計画

(1) 単元名

Unit 6 This is my town. (Here We Go! 6年 光村図書)

(2) 単元(題材)の目標

自分の町にあるものやそこでできることを紹介することができる。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの町について、 We have～/don't have～. の表現を用いて、あるもの やないものを伝え合う技能 を身に付けている。 動作や様子を表す既習の表 現の意味を理解し、自分が 表したいことを表現するた めに活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの町の施設の魅力 を伝えるために、施設につ いて調べたことを思考ツール にまとめ、英語で表現し ている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの町の施設の魅力 を伝えるために、施設につ いて調べたことを思考ツール にまとめ、英語で表現し ようとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画(全9時間、本時6/9時間)

次 (時数)	◎学習内容 ○学習活動	◆活用する資料・教材 ☆主な評価規準と方法
1 (1)	◎アニメーションを見て、新しい単元の学習内容を知ろう。 ○本単元の内容や語彙に触れる。 ○施設や建物などの言い方を知る。 ○ビンゴゲームをする。	◆p70 Story ◆新出の表現練習
1 (2)	◎ALTのパメラ先生の出身地には、どのような施設があるのだろう。 ○ALTのTeacher Talkを聞く。 ○話を聞いて分かった、施設について答える。 ○パメラ先生に自分の長岡のお薦めの場所を伝えること を知る。 ○既習の表現をすごろくをしながら思い出す。	◆ALTのTeacher Talk ◆パイプすごろく(A LT)
1 (3)	◎ふるさと長岡にある施設とない施設はなんだろう。 ○Teacher Talk「ふるさとにある施設とない施設」を 聞く。	◆教師のTeacher Talk ◆p72 チャンツ ◆ビンゴ(巻末カード)

	<p>○I have○○.とI don't have○○.の表現で表すことができることを知る。</p> <p>○長岡市にある施設と無い施設を出し合おう。</p> <p>○Let's chant. 「We don't have an aquarium.」</p> <p>○夢の町にこの施設はある？無い？ビンゴで表現に慣れよう。</p>	<p><この授業後作成></p> <p>◆ある・ないの表現掲示</p> <p>◆長岡ある無し施設掲示</p>
2 (1)	<p>◎施設でできることを伝えよう。</p> <p>○長岡紹介Small Talk①</p> <p>○Let's watchを見て、紹介している施設と、そこのできることを聞き取る。</p> <p>○「～できる」を表す表現はcanであったことを想起する。</p> <p>○動作を表す言葉を復習する。</p> <p>○Let's chant. 「We can enjoy fishing.」</p> <p>○何の施設でしょうクイズに挑戦する。</p>	<p>◆ p 74 Let's watch</p> <p>◆ チャンツ</p> <p>◆ 何の施設でしょうクイズ (教師)</p> <p><この授業後作成></p> <p>◆ 動作を表す言葉掲示</p> <p>◆ 様子を表す言葉掲示</p>
2 (2)	<p>◎コマーシャル動画のために、長岡のどの施設にするか、何をお薦めするか考えよう。</p> <p>○長岡紹介Small Talk②</p> <p>○Teacher Talk「三条市 (旧下田村) にあるお薦め施設①」を聞いて、施設の特徴を知る。</p> <p>○教師のお話から、思考ツールを埋める。</p> <p>○お薦め施設について考え、思考ツールを作成する。</p>	<p>◆ Teacher Talk</p> <p>◆ 思考を整理するツール「フィッシュボーン」</p> <p>◆ 動作を表す言葉掲示</p> <p>◆ 長岡あるなし施設掲示</p> <p>◆ わたしたちの町ながおか</p> <p>◆ インターネット</p>
2 (3) 本時	<p>◎これまでに学習した表現を使って、お薦め施設を紹介する表現を考えよう。</p> <p>○長岡紹介Small Talk③</p> <p>○長谷川先生の思考ツールを基に、やり取りしながら紹介するための表現を確認する。</p> <p>○個人の思考ツールに立ち返り、既習の言葉でどのような表現で表せるか考える。</p> <p>○4人のグループで、互いの表現を聞き合い、アドバイスし合う。</p> <p>○同じ列ごとに紹介し合う。</p>	<p>◆ 完成した思考ツール</p> <p>◆ 動作を表す言葉掲示</p> <p>◆ 長岡あるなし施設掲示</p> <p>◆ 様子を表す言葉掲示</p> <p>知識・技能</p> <p>☆既習の表現を使って、選んだ施設をお薦めする理由を話すことができる。</p>
2 (4)	<p>◎お薦めの施設を紹介する準備をしよう。</p> <p>○長岡紹介Small Talk④</p> <p>○Teacher Talk③「三条市 (旧下田村) のお薦め施設」を聞く。(前時に児童と作った表現を活用し、タブレットで画像を加えたものを用意する。)</p> <p>○ペアトークで、思考ツールを基に、前時に作った自分のお薦め施設の紹介を想起する。</p> <p>○お薦め施設の魅力が伝わるように、発表資料 (画像のみ) を制作する。</p>	<p>◆ 完成した思考ツール</p> <p>◆ 動作を表す言葉掲示</p> <p>◆ 長岡あるなし施設掲示</p> <p>◆ 様子を表す言葉掲示</p>
2 (5)	<p>◎長岡のお薦め施設を紹介するコマーシャル動画を撮影しよう。</p> <p>○動画撮影の前に、声の大きさや視線を意識できるよう仲間と練習し合う。</p> <p>○発表資料を基に、自分のお薦め施設を紹介する動画を撮影する。</p> <p>○仲間同士で見合い、評価・感想カードを交換する。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>☆自分たちの町の施設の魅力を伝えるために、動画を見直して表現を工夫している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>☆動画を見直して、相手に伝わりやすい施設紹介になるように工夫して取り組もうとしている。</p>
3	<p>◎様々な人の住む地域や町について聞き、その特色を知ろう。</p> <p>○世界の小学生が住む町の紹介映像を見て、その町の特色を聞き取っている。</p>	<p>◆ p 76 Let's listen and read.</p> <p>◆ p 76 world Tour など</p>

4 単元と児童

(1) 単元について

本単元では、自分たちの住む町について調べ、町にある特徴的な施設や場所などを紹介する。故郷のよさを再発見することで、「人々に町のことを発信したい」という意欲や「仲間が調べたことを聞きたい」「他の地域のことを知りたい」という他者や他地域への関心を高めやすい単元である。また、地域の特徴的な施設・場所を調べる中で、伝統的な行事や文化に触れたり、地域の歴史にまで学びを広げることができる単元にもなる。総合的な学習との教科横断的な構成と、児童が故郷のことを学ぶことができるツールを活用して地域のことを知り、自分の思いを英語で表現しようとする意欲につなげたい。

(2) 児童の実態（6年生 32名）

これまでに、「話すこと[発表]」ではユニットの終末に、あらかじめ準備した原稿を覚え、ユニットで学んだことを原稿を見ずに発表したり原稿を確認しながら発表したりする活動を積み重ねてきた。時にはタブレット端末を活用し、画像をつなぎ合わせてプレゼン資料を作成したり、発表の内容を深めるためにインターネットから情報を収集したりする経験もしている。作成した資料をモニターに映しながら英語で発表をする、発表を見るところという取組も行ってきた。

しかし、2(1)テーマ設定の意図でも述べたように、児童に思考させたり発表させたりする手順にとらわれ、「児童が表現したいことを原稿にして読んで発表する」ことや「原稿にしたものを何度も練習し、暗記したものを発表している」という授業実践が増加しているように感じる。つまり、既習の英語表現を覚えて発話するという段階にとどまり、あらかじめ準備していたもの以外の英語表現を使うことはできていないのが実情である。そのユニット以前に学んだ表現を忘れがちになっている様子も見受けられる。

本単元では、「Teacher Talkを聞いて表現を想起する」とことと、「既習の表現を活用する発話の積み重ねを行うこと」、「覚えて話すではなく、即興的に話す活動に取り組むこと」を手立てとして、児童が自分の思いを既習の表現を活用して伝えようとする姿を期待する。

5 本時の展開（令和4年11月25日実施）

(1) ねらい

- ・既習の表現を活用して、選んだ施設についてお薦めする理由を話すことができる。

【知識・技能】

(2) 展開の構想

既習事項を活用し児童同士のやり取りの場面を日常化するために、導入でSmall Talkを設定する。教師が日常生活を基にした話題をTeacher Talkとして話す。その後、児童同士で質問し合えるようなテーマを提示し、ペアで即興的に自分の思いを伝え合う活動をする。さらに、「長岡紹介Small Talk」という活動を設定し、教師から提示された動作を表す言葉を活用するために、即興的に自分で紹介する施設・場所を選択し、出来ることを英語で紹介する言語活動を行う。

教師のお薦めのスポット紹介では、教師の思考ツールを基に1つの施設について学級全体で紹介文を考える。この活動を本時の学習活動のモデルにして、児童の思考の活性化につなげたい。その後、個別に作成した思考ツールや既習表現の掲示物を見ながら、伝え方を考え

る。また、表現しにくい言葉があった場合は全体で共有し、アイデアを出し合ったり、タブレットを活用して表現を調べたりすることができるように指導する。

本時を通して、児童が選んだお薦めの施設や場所について、伝えたいこと、話したいことを英語で表現させ、表現できた時の達成感を味わわせたい。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け 予想される児童の反応	□評価 ・活動 ○支援 ◇留意点
1分	あいさつ	T : Hello. C : Hello. T : Let' s start the lesson. T : How are you ? C : I' m ○○. T : Please ask me. C : How are you ? T : I' m ○○. Thank you.	
10分	帯活動 Small Talk	<p>【施設の言い方練習】 【動作を表す言葉チャンツ・練習】</p> <p>【Teacher Talk】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Where did you go 勤労感謝の日？ I went to movie theater with my brother. I enjoyed watching すずめの戸締り. It was nice. Please ask your friends “What did you do 勤労感謝の日？”</p> </div> <p>【日常生活のSmall Talk】 C : Where did you go 勤労感謝の日？ C : I went to ~. It was ~.</p> <p>【長岡紹介Small Talk】 T : Let' s Talk to use “enjoy” . C : どの施設で、何を楽しめるのかを伝えようかな？ T : First, it' s my turn.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Welcome to Nagaoka. We have movie theater. You can enjoy watching movies.</p> </div> <p>T : Please make pairs. Let' s Talk to use “enjoy” . C1 : Welcome to Nagaoka. We have ○○. You can enjoy~. C2 : Wow. Welcome to Nagaoka. We have ○○. You can enjoy~. C1 : Good. *やり取りを紹介してもらうペアを指名する。</p>	<p>◇can に続く動作を表す言葉は、教師が提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長岡にある施設・場所掲示の中から選ぶ。 ・その施設でできることを即興的に英語で紹介する。 <p>◇活用する動作を表す言葉は、see/play/enjoy/get/eat/buy…とする。</p>
10分	前時までの復習をする。	T : 前回、コマーシャル動画を作る長岡のお薦め施設について、自分で場所を決めて思考ツールに考えを整理しましたね。 今日は、これまで学習してきた表現から自分の紹介に合ったものを選んで、英語で表現する方法を考えましょう。	

	<p>本時の学習活動を確認する。</p>	<p>◎お薦めする施設を紹介する英語の表現を考えよう。</p>	
	<p>教師のお薦めのスポット紹介の思考ツールから考える。</p>	<p>T : まずは、私のふるさと、三条市（旧下田村）のお薦め施設を紹介する思考ツールを基に、どのような紹介文にするとよいかみんなのアイデアをください。</p> <p>T : （思考ツールの掲示と紹介） 「八木ヶ鼻オートキャンプ場」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ→楽しめる ・八木ヶ鼻が見える→景色がとてもよい ・川遊び→夏、きれいな小さい川 ・バーベキューができる。 <p>C : 「キャンプを楽しむことができる」は、 You can enjoy camping.</p> <p>C : 「八木ヶ鼻って何??」</p> <p>T : 何か分からないよね。これです！（写真）</p> <p>C : 崖だ！でも山？ じゃあ、この「八木ヶ鼻が見える」は？ You can see 八木ヶ鼻？ mountain?</p> <p>T : 「景色がとてもよい」は？</p> <p>C : It's nice.</p> <p>T : 様子を表す言葉ですね！</p> <p>C : 川遊びは…You can 川遊び。</p> <p>T : You can play in the river. とかね！</p> <p>* 児童とやり取りしながら、教師の思考ツールを基に、既習の英語表現から言葉を活用していく。</p> <p>T : みなさんのおかげで、私のお薦めスポット紹介ができました。一度言ってみますね。</p>	<p>【活用させたい既習表現】</p> <p>Welcome to Nagaoka.</p> <p>We have ○○.</p> <p>In 季節, we can see ○○.</p> <p>We can eat/buy/enjoy/play/visit/go to/ride</p> <p>○児童がどのような施設・場所なのかイメージがもてるよう、写真を提示する。</p>
<p>20分</p>		<p>T : では、自分の思考ツールを基に、お薦め施設の紹介を考えてみましょう。</p> <p>C : これは、You can seeが使えるな。</p> <p>C : ~はどのように表現したらいいのかな。</p> <p>* 教師は、表現に困っていることを児童から聞き、話題にしたり板書したりする。</p> <p>* 1人では難しい様子が出てきたら、4人班を作るよう促し、仲間のアイデアをもらせるようにする。</p> <p>* 既習の表現以外は、タブレットを使って調べる方法を伝え、進んで調べることができるようにする。</p> <p>T : 今日、英語で考えたお薦めする理由を仲間に伝えてみましょう。話したことが伝わるでしょうか。</p>	<p>□既習の表現を活用して、選んだ施設についてお薦めする理由を話すことができる。【知識・技能】</p>
<p>4分</p>		<p>T : 今日の振り返りを書きましょう。</p>	

(2) 研究テーマに関わる児童アンケート結果の考察

① 学んだ表現方法を積極的に使うようになったか

「英語で話すSmall Talkには、どのように取り組むことができたか。」という項目で児童にアンケートを実施したところ、約93%が「これまでに学んだ言葉や表現を使って、言いたいことを伝えることができた」という肯定的な評価をしている。(図2) 英語の表現をくり返し学習することで慣れ親しみ、活用することができた児童の様子がうかがえる。しかし、「言いたいことはあまり伝えられなかった」児童が約7%いる。表現したいことがあるが、どのようにしたらよいか分からないという児童の学びをどう保証するかが課題である。

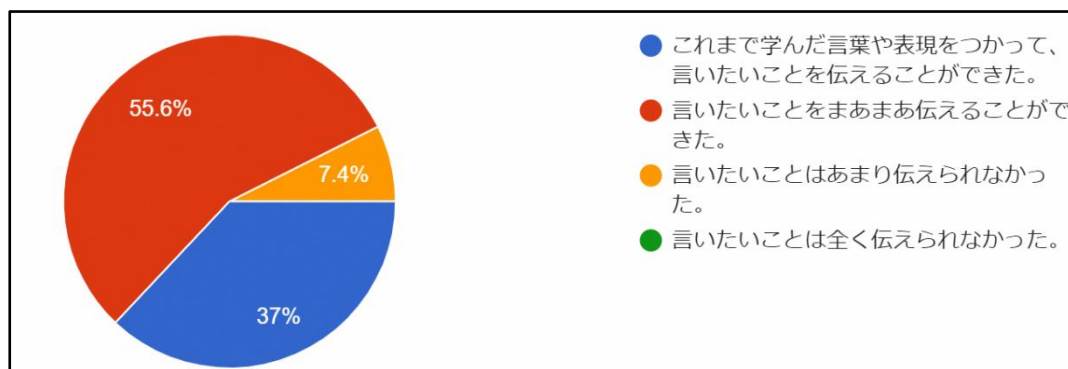


図2 「英語で話す Small Talk にはどのように取り組むことができたか」

② 学んだ表現を活用して、自分の考えを伝えようと取り組むことができたか

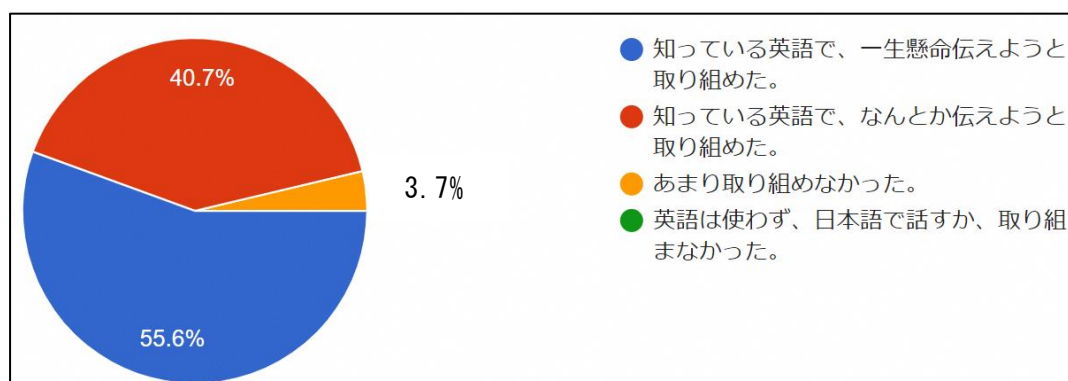


図3 「長岡市のお薦めの施設・場所を既習の表現を活用して英語で伝えようと取り組むことができたか」

「長岡市のお薦めの施設・場所を既習の表現を活用して英語で伝えようと取り組むことができたか」については、約97%の児童が「知っている英語で一生懸命伝えようと取り組めた」、「なんとか伝えようと取り組めた」と回答し(図3)、本研究のテーマとして掲げた「既習の表現を活用して英語で伝える力の育成」に迫ることができた。

(3) 成果と課題

① Teacher TalkとSmall Talkの在り方

毎時間取り組んだTeacher Talkについて、「なんとなく意味が分かった」児童が約39%、「知っている単語を聞き取ることができた」が約62%と評価している。「何を言っているか分からなかった」児童がいなかったことを考えると、児童はそれぞれ既習の表現を言葉や文章の単位で理解し、聞く力を高めていることが分かった。(図4)

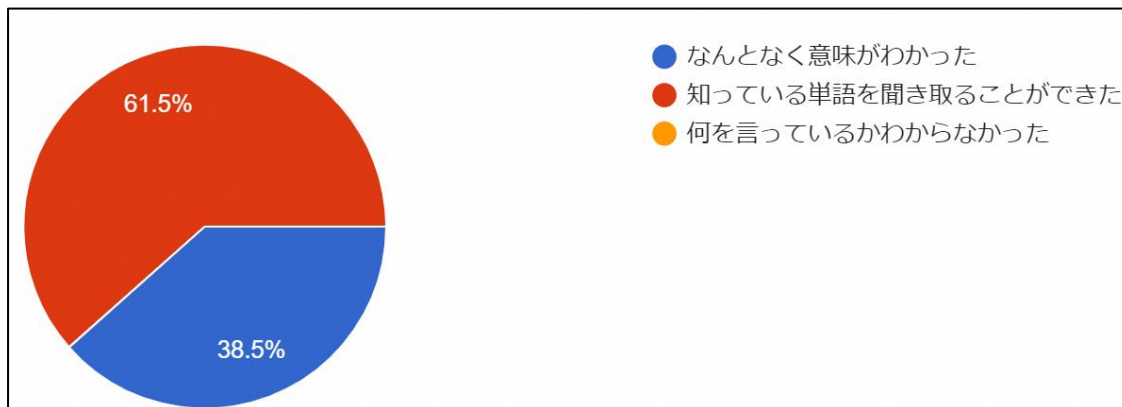


図4 「Teacher Talk の聞こえ方について」

本実践中、教師は「児童に既習の表現に慣れたり活用したりしてほしい」という願いをもち、Small Talkのテーマについて「～について話そう。」や「～（動作を表す言葉）を使って表現しよう。」という提示の仕方をした。しかし、この提示の仕方では児童が「自分の考えを英語で表すには？」という思考・判断・表現する場面がなくなり、その部分を阻害し、言語活動ではなくなってしまうことが分かった。「あのことを表現したいけれど、思い出せない。」とか「どのように表現したらよいか分からない」という場면을教師が取り上げ、全体で共有し、再び活用してみるという繰り返しの言語活動につなげていくことが必要であると分かった。

また、児童同士のやり取り場面では、自分の話を一方向に伝えるだけになってしまい、「話すこと[発表]」の域から出ることができなくなった。「話すこと[やり取り]」にするためには、反応や問い返し、繰り返しなどの双方向による会話が必要である。やり取りの力を高めるための学習の積み重ねができていなかった。やり取りで活用できる表現に慣れ親しみ、繰り返し活用することができるようにする指導も必要である。

② 言語の定着を図る帯活動

「英単語や動作を表す言葉を読んで声に出して繰り返し練習する活動」（図5）については、「英単語や英語での表現を繰り返すことで、英語で表せる言葉や言いたいことが増えた」と評価する児童が約44%、「練習を繰り返すことで意味が分かってきた」という評価が37%であったことから、言語活動を成立させるための土台となったと考える。

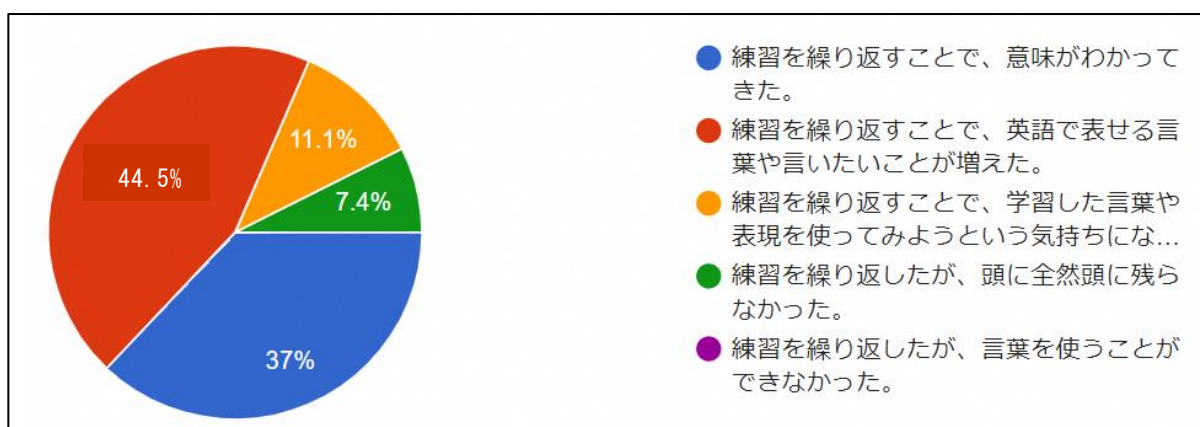


図5 「英単語や動作を表す言葉を読んで声に出して繰り返し練習する活動」

児童が英語の表現にデジタル教材や教師のモデルとなる発話を真似ることのみでは、児童の思考は働かず、徐々に作業になってしまっていくと考える。児童の「あのことを表現したいけれど、思い出せない。」とか「どのように表現したらよいか分からない」という気持ちを持ち、伝えたいことをどのように表現するとよいかを考える際に児童の思考は活性化する。その思いに教師が気づき、学級の児童で共有し、共に考え、試行錯誤することによって生きた言語活動につながっていく。そうした帯活動にしていきたい。

③ 児童の「伝えたいこと」をまとめる方法

本実践では、児童自身が伝えたい内容をイメージマップを基に英語で話す活動を設定した。しかし、日本語でのメモが詳細になり過ぎ、言い表したいことが児童が習得している英語表現とかけ離れたり、難しくなり過ぎたりしてしまった。その結果、現時点で身に付けている英語表現では表すことができないという状況に陥ってしまった。

そこで、2つの改善策を考えた。1つは、話す内容が含まれた写真だけをまとめておくことである。児童が紹介したい内容を特徴的に表されている写真をまとめておき、それを見ながら自分が伝えたいことを英語で表現していくようにする方法である。

2つ目は、より内容を絞ることができる思考ツールの活用である。イメージマップで、「くらげチャート」(図6)を活用し、そのユニットで確実に身に付けさせたい表現と児童が言い表したいことをつなげ、整理する方法である。この思考ツールにより、難しすぎる表現ではなく、児童が使える英語表現で相手に考えを話そうとするのではないかと考えた。これらの方法などを生かし、発表に向けて原稿を基に同じ表現だけを練習するのではなく、即興的に自分が言い表したいことを表現することができるようにしていきたい。



図6 くらげチャート

(4) 最後に

本実践を通して、児童が「自分が考えたことを英語で伝えたい」と必要感をもって学ぶ場面や状況を整え、いかに「思考力、判断力、表現力」を働かせる言語活動を設定できるかが重要であるかを実感することができた。児童が学びを必要とする場面は、「伝えたいけれど言い表せない」というジレンマや「あの言葉に置き換えれば言えるかもしれない」という思いを抱えた時に高まる。その場面を教師が意図的に作り出し、児童同士が考えを共有しながら再び言語活動に取り組むことで、表現を暗記するのではなく、その場で考えながら発話する生きた英語になっていくのだと感じる。その授業構成・単元構成を繰り返し、教師も児童も分からないことから学ぶ雰囲気になれることが必要だと感じた。

<参考・引用文献>

- 文部科学省. 『小学校学習指導要領 解説 外国語活動・英語科編』. 東洋館出版社. 2018
- 文部科学省. 『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』. 旺文社. 2017